

2021年12月期 第1四半期決算説明会 質疑応答の要約

2021年5月12日に開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネット 代表取締役会長兼社長・グループ代表の熊谷より回答させていただきました。また、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

●連結業績

【Q1】 1Qが好業績のスタートとなったことから今期はかなり投資余力がある期とも考えています。こうした中、戦略投資を加速させる可能性についてどう考えるか？また、取り組むべき投資先として優先度が高いのはどの領域か？

【A1】 既存の事業の足腰を強くするような投資を考えています。例えばGMOコインにおいては、取引高シェアはNo.1となったものの、新規口座の獲得についてはまだまだ課題があると考えており、プロモーション投資を行なう可能性があるかもしれません。また、GMOサインにおいて、プロモーション投資を加速させることも選択肢かと考えています。

●インフラ事業

【Q2】 「GMOサイン」の足元の進捗と事業の見通しについて

【A2】 今期は「GMOサイン」を圧倒的No.1のサービスに育て上げるべく、様々なプロジェクトを走らせています。本日のアプリリリースはその中の一つです。アカウント数拡大のためマーケティング施策の準備を進めているところです。詳細についてはGMOグローバルサイン・HDの決算説明会でご説明させていただきます。

【Q3】 「GMOサイン」のアプリについて、ターゲットとなるのは中小企業かそれとも広くあまねくエンドユーザーとなるのか？今後のアプリ普及のシナリオと単価設定についての考えを聞かせてほしい。

【A3】 初期の段階においては、中小企業の方々がターゲットとなることを想定しています。これは、テレワーク需要、脱はんこの法制化などといったニーズの強さが要因です。しかしながら、3~5年、10年単位で考えるとB向け、C向けというのは関係なく、広くあまねく誰もがスマートフォンの中で、価格を気にせず使うことができるようなサービスとなることを志向しています。したがって、単価についても普及の状況、競合の状況を見ながら徐々に決めていくべきで、現時点で議論するのは時期尚早だと考えています。

●広告・メディア事業

【Q4】 久々の好業績となりサプライズ感があったが、2Q以降の見通しについてどう考えるか？

【A4】 広告需要期をきちんと刈り取りができたという側面は確かにありますが、注目していただきたいのは、自社商材・自社メディア強化という構造改革が進んできたということで

す。結果として利益率の改善につながっています。底打ちし、成長基調に回帰することがようやくできてきたと捉えています。

●暗号資産事業

【Q5】 暗号資産事業のサブセグメント毎の利益の状況はどうなっているか？

【A5】 今期より、マイニング事業が安定稼働期に入ってきたこともあり、他のセグメントと同様にサブセグメント毎の利益の明細開示は取りやめております。暗号資産交換事業、暗号資産マイニング事業ともに限界利益率の高い事業であることから増収にともない増益。暗号資産決済事業について投資ステージと言う状況です。

【Q6】 マイニング事業の収益性について、1QはグローバルHRが安定的に推移し、暗号資産価格も高かったことから、高水準で推移したと考えるが、今後の見通しについてどう考えているか？

【A6】 マイニングのグローバルHRについては、季節性があると考えています。2Qに入り中国が雨季に入ったことで、現地のマイニング事業者が安価な水力発電によるマイニングセンターの稼働を拡大させたことで、グローバルHRも上昇してきています。一方、マイニングマシンについては、半導体製造のキャパシティという物理的な制約があることから、その上昇スピードには限界があると捉えています。一方、私どもは世界的に最も安い水準の電気代を使用できており、さらに今後改善の余地があり、収益性についても改善しうると考えています。

【Q7】 交換事業において、4月度のBTC取引シェアが国内No.1となったとの開示があったが、持続可能性についてどう考えるか？また今後の戦略は？

【A7】 今後の戦略については2つ考えています。まず、新規の個人顧客獲得のためのマーケティング強化です。具体的には、TVCM・動画広告といったものです。次に、法人口座の拡大です。法人口座については、レバレッジ規制が緩やかなため、取引高の拡大につながると考えています。こうした取り組みを通じて、シェアNo.1を継続していきたいと考えています。

●NFT事業

【Q8】 NFT事業への投資の規模感は？

【A8】 NFT事業の展開には4つの要素が必要と考えています。この内3つは既に内製化できており、追加的な支出は限定的だと考えています。4つの要素とは、①暗号資産交換事業の機能、こちらはGMOコインが暗号資産交換業者としての免許を既に保有しております。次に②スマートコントラクト、こちらも従前からブロックチェーン技術の研究開発に取り組んでおり、知見が溜まっています。そして、③暗号資産のウォレットですが、こちらについてもGMOコインで既に開発済みです。最後に④マーケットプレイスについ

GMO INTERNET

では、鋭意開発を進めているところです。

以上